

平成31年度  
沖縄県立芸術大学  
大学院造形芸術研究科生活造形専攻  
工芸専修共通筆答試験「小論文」

問 題

工芸と観光との関わりについて、あなたの考えを述べて下さい。

条件：800字～1600字（原稿用紙2～4枚）

## 【染・実技試験】

問題： 型染を想定して配布されたモチーフの2種類以上を使い、白地型の図案をケントボードに制作しなさい。

モチーフ

- ・ サンセベリア（虎の尾）
- ・ カランコエ
- ・ アイビー

制作上の注意事項

- ①ケントボードの裏面にある受験番号欄に、受験番号を記載すること。
- ②裏面に上下がわかるように矢印(↑)で上を明記すること
- ③型紙図案の大きさは、42cm×30cmで、縦・横 使いは自由。
- ④42cm×30cmの枠は、ケントボードの中央に収まるようにする。
- ⑤白地型の図案で、配色する模様には黒（アクリルガッシュ）で着色し、糊防染する箇所は、白（紙の色）で残す。  
絵の具の白は、修正で使用してもよい。または使用しなくてもよい。
- ⑥全ての配布物は持ち帰らないこと。

\*問題に関する質問にはお答えできません。



平成31年度  
沖縄県立芸術大学  
大学院造形芸術研究科生活造形専攻  
工芸専修 織 実技試験問題

動植物をテーマに下記の条件で、壁面装飾布の織物デザインをなさい。

( 記 )

- 技 法 : 縞と縞を使用する
- 寸 法 : 幅 180cm×長さ240cm ( 90cm幅の2枚組 )
- 色 彩 : 全体図のデザインが分かる様に着色  
( 縮尺1/10 )
- 答案用紙 : B3ケント紙 1枚
- 下書き用紙 : B3方眼紙 2枚
- 実技解答用紙を記入する事

平成31年度 沖縄県立芸術大学院造形芸術研究科

生活造形専攻工芸専修

陶磁器研究室 実技試験問題

【問題1】 制作時間 13:30～14:30

用意された粘土（白土）を使用し、指定されたトンボを用いて1時間以内で轆轤を用いて碗を数挽きしなさい。

【問題2】 制作時間 14:30～16:30

配布された立体表現試験問題を読み、用意された粘土を用いて粘土板上に自由に立体表現しなさい。

平成31年度

沖縄県立芸術大学 大学院造形研究科

生活造形専攻 工芸専修 陶磁器研究室

実技試験 【問題2】

「土の可塑性とは何か」をあなたの造形観でカタチにしてください。

また、出題についてどのように考えたか所定の原稿用に  
400字以内で記述せよ。

## 条件

- ・与えられた粘土を使用すること
- ・準備された道具のみ使用すること
- ・作業板の範囲内で制作すること
- ・下書き用紙は持ち帰らないこと

平成31年度 大学院造形芸術研究科  
生活造形専攻工芸専修 入学者選抜試験  
漆工研究室

【実技試験問題用紙】

試験時間 13:30～16:30

配布物 ・ 解答用紙（四つ切り画用紙 1枚、A4説明書 1枚）  
・ A3下書き用紙 2枚

使用できる用具

・ 素描用具、色鉛筆

注意事項 ・ 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと。  
・ 定規・コンパス等のその他用具は、使用しないこと。

## 問題

- ① 四つ切り画用紙に「四季（春・夏・秋・冬）の中から一つの季節」をテーマとして選択し、加飾を施した漆芸作品の完成予想図を描きなさい。
- ② 説明書の項目にしたがって作品の内容について記述しなさい。

※問題に関する質問にはお答えできません。

## 注意事項

- ① 作品本体の色は「黒」又は「朱」と想定するが、それぞれの色を塗る必要はない。
- ② 説明書の「作品本体の色」の黒又は朱に○を付けること。
- ③ 加飾部分のみ、素材や技法が分かり易いように色鉛筆を使い表現すること。
- ④ 立体感が感じられるように補助的な線や陰影を付けても良い。
- ⑤ 説明書の「制作意図」には、選択した季節について記述すること。
- ⑥ 説明書の「作品の環境」とは、使用又は設置する場所・状況・目的・他者との関わり・その他、作品を取巻く全てを意味する。
- ⑦ 四つ切り画用紙のタテ・ヨコは自由とする。作品の上下が分かるように裏面上部中央に作品の上部を示す矢印 ↑ を鉛筆で明記すること。